

今年も北海道議会議員と札大生が地域課題の価値転換に向けて大議論

北海道議会との包括連携協定に基づき、令和6年12月11日(水)北海道議会庁舎において、北海道議会議員と本学学生が意見交換会を実施しました。議論のテーマは学生が自由に設定し、地域の課題を新しい発想で改善に導く方策について、議論を深めるものです。本学学生にとっては、ゼミ活動で取り組んできた問題提起や主張について、議員と直接意見交換できる大変貴重な場となっています。

岩本・石井ゼミ

「空手エクササイズ」

～高齢者の転倒予防に～



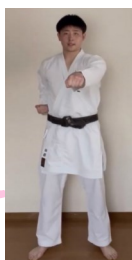
祖母の転倒骨折もあって・・・

西岡地区は、豊平区内で最も高齢化が進んでいます。西岡福住地区センターで活動する健康体操サークルにお邪魔をして、冬期間の転倒防止に向け、空手の動作を取り入れた下半身強化策と筋力の数値測定を提案。1/3の方がエントリーして、筋力測定では、全員の数値改善が見られました。運動+毎年の健診受診に繋がってほしいです。



空手エクササイズ動画制作 (佐藤欽典さん4年)

空手エクササイズ動画を制作し、空手の動作による身体への影響がわかりやすく伝わるように工夫しました。また、普段は使わない筋肉を動かしたり、関節の柔軟性を高めることで、転倒予防につながることをお伝えしました。継続的取り組んでもらうために、YouTubeに動画をUPし、好評をいただきましたが、たまには一緒にどうですか？とラブコールもいただきました(笑)



地域の方々の健康に寄与する開かれた大学へ

【大学生】

- ・大学生の関りにより、心身の健康づくりに貢献できると感じつつも、持続性の確保には推進体制の整備が必要
- ・大学生は地域の孫→20代、70代の交流は動機付けが芽生えやすい。
- ・直接対話は紙広告の10倍の関心度(共感形成しやすい)

【道議会議員】

- ・他地域の事例を参考に、持続方法を探るのが良いですね。



小さな「きっかけ」を連結させて
「次世代が輝ける北海道へ」

小笠原ゼミ

子どもたちの未来を作る

「きっかけびと」～地域格差をなくしたい～



きっかけを作る大学生になる！

「体験格差・意識格差」という社会問題の解消に向けて、多様人との出会いや体験機会が経済事情・家庭環境・居住地によって左右されない社会を北海道全体で作りたい。学生達は、各々のパーソナルストーリーを踏まえ、きっかけづくり関係人口として行動を起こします。実は80%の学生が子供と接することに不安を感じてのスタートでした。



体験格差の主な要因を知り、現地調査へ

「親が子どもに体験をさせてあげられない理由」

- 経済的理由
- 時間的理由
- 距離の問題

☆学生らの挑戦

⇒子どもたちの行動圏内に飛び込んで自身の意識改革を行った。
・珈琲きゅろっと
・西岡高台児童館
・鶴川高校(異文化交流)



「誰かが」から「誰もが」で格差のない社会を！

【大学生】

- ・子どもが苦手だったが、自身の気持ちの変化を実感
- ・子どもと接するスキルや活動時間の壁を実感
- ・場所の工夫や移動費の補助等(大学としての取組みも)
- ・子育てを社会化するコミュニティ形成が必要
- ・課題を克服し、公的機関の認証を求めたい

【道議会議員】

- ・大学生の発想に感銘です。我々、大人一人一人の意識改革が必要ですね！



【職員のつぶやき】 地域連携といっても、各大学によって、取り組みは様々です。しかし最近、地域と十分に共感形成がされないまま、地域住民と学生が置き去りとなっている事例も耳にします。なぜ、こうしたことが起きてしまうのか。札幌大学は、地域との丁寧な対話を重ね、地域の方々と学生らが共に学びあう「地域共創」の考え方で「ありがとう」が響き合う関係構築を大切にしております。(M)

